

## 補足説明資料のマスクング誤りについて

- 補足説明資料のマスクング誤りに対し、要因分析により原因を究明し対策を策定。
- 提出済みの資料および今後の資料に対して対策を展開する。

マスクング誤り対象資料	事象内容	主な要因	対策
耐震建物23	<ul style="list-style-type: none"> <li>• マスクングチェック後、資料を修正したことから、再度最新版資料にマスクングを実施した際に反映が漏れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料作成責任者（安全ユーティリティ課長）は、マスクング確認所管（再処理計画G）によるマスクングチェック後に資料を修正し、修正した補足説明資料の再チェック依頼をマスクング確認所管に行わなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• マスクングチェック後に資料の変更が生じた場合、資料作成責任者は、変更点を明確にし再チェックを確実に受ける運用とする。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 設工認事務局は、規制庁へ資料を提出する前に、修正部分も含めて全てのマスクングチェックが終了していることを確認しなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 設工認事務局は、資料作成責任箇所・マスクング確認所管と協力し、資料のマスクングチェックに関するステータス管理を行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料作成責任者が、担当者にマスクング工程を含む具体的作業工程を示さなかったため、十分なマスクング期間が確保されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料作成責任者は、マスクング確認所管のチェック時間を確保した工程を作成し、作業指示する。</li> </ul>
耐震地盤01	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 計算式の過程を追記した際に、追記部分にマスクング対象の数値が含まれていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料作成者（土木担当）は、建物側の補足説明資料から図面寸法がマスクング対象であることを認識していたが、計算式中までの数値が商業機密でマスクング対象であると気づかなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料作成所管は、本事象である商業機密が類推できる文章中の情報についてもマスクング対象であることを実例とともに関係者に周知する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料作成所管（耐震技術課）は、マスクング確認所管に対し、事前にマスクング確認を行った版からの変更の理由と内容を伝えていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料作成所管は、マスクング確認所管に前の版からの変更の理由と内容を伝える運用とする。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料作成者は、式の変数の説明を記載していなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 設工認ガイド所掌箇所（許認可業務課）は、式の変数の説明を明記するよう周知する。</li> </ul>